

授業力向上推進プロジェクト委員会

所属： 岐阜県立高山工業高等学校

氏名： 野添 祐輔

1 個人テーマ：観点別評価に向けた評価方法及び指導方法の研究

2 テーマ設定の理由：

観点別学習状況の評価が導入されるのは、英語学習に対する意欲や動機がある生徒が通う学校だけではない。本校のように学習習慣の確立や基礎力の定着が不十分であり、英語に対して非常に苦手意識をもつ生徒が多い学校においては、観点別学習の評価の導入に対して小さからぬ問題が存在しているのが現状であろう。そこで、本校のような学校においても、現実的に達成が可能かつ持続可能な、観点別評価に対応したテスト及び授業のあり方について検討する必要があると感じ、このテーマの設定に至った。

3 研究内容（取組内容）：

英語学習の素地となる力が非常に弱い生徒に対して、テストの際に初見の問題を出題する事は、現状では生徒の学習意欲を削ぎ授業に取り組む意欲を失いかねさせない。このような現状をふまえ、本文で扱う題材や言語材料を用い、どのように授業とテストを結びつけるかの改善と研究を行った。

単元は、困難な状況でも教育を信じ、声を上げたマララさんを題材に子供の教育について考えるものであり、言語材料としては比較表現を学習する。授業中のワークシートでは世界各国の就学率に関するグラフを扱うが、教科書の本文中にはこうしたグラフや表などの出題はない。そのため、授業中にこうしたグラフを理解するために比較級や基礎的な表現を学習し、これらを個人及びペアで読み解き説明できるようにする。その上でテストでは就学率に関するグラフを用いた初見の問題を出題し、「読む力」を知識・技能および思考・判断・表現の面から評価を行うことを想定している。

4 成果

テスト問題及びワークシートの作成にあたり本校の英語科内において助言を頂いた。テストを実施する際に想定される最大の問題は、初見の問題に生徒がどの程度対応可能か、どのように対応させるかという点であった。これまでのテストにおいても、簡単なパラフレーズを行った本文を用いた問題には取り組ませているため、容易ではないが普段の授業において必要事項を繰り返し定着させればなんとか対応することは可能であろうとの結論を得た。ただし、英語が苦手な生徒にとっては今以上に英語学習が困難になること、テストで初見の問題が出ることによる生徒の学習意欲の低下を懸念する意見は多く挙げられた。今回の研究により、観点別学習評価のためのテストに関して一定の枠組みを作ることができたが、今後さらに現状に合わせてさらなる改善を実施していかなければならない。

5 課題

本校では、この新形式でのテストを今年度は完全な形で実施することができていない。簡単なパラフレーズを行った程度の知識・技能を問う問題であれば生徒はある程度対応可能であることは判明したが、生徒が新しい形式のテストにどの程度対応可能であるかについてはスモールステップと改良を継続しながら今後の検証が必要である。

来年度から入学してくる中学生は、新しい評価に対応したテストを受けているため、今後、初見の問題に対してはある程度は忌避感を抱かず対応可能であると考えられる。しかし、英語学習に対する困難さを抱える生徒が一定程度存在することは想像に難くない。このことを踏まえ、今まで以上に、英語を実際に使う場面を想定し、生徒の学ぶ意義や意欲を高め、学校の特色とも関連させた学びを提供する努力を継続していく必要があるであろう。